

保育ステップ ジャンプ

Hoiku Step jump



発行者

千葉県民間保育振興会

代表者 茂呂 剛

HP <http://shinkokai.main.jp/>

事務局 〒272-0144

千葉県市川市新井 2-1-21 (新井保育園内)

TEL:047-357-3211 FAX:047-357-8936

MAIL: info@shinkokai.main.jp

お知らせ

総会開催のご案内 (予定)

日時: 令和2年5月19日 (火) 14:00~

場所: 千葉センシティタワー23階 東天紅

青年部会員募集~これからの保育を共に語ろう~

楽しく学び、語り、高め合いましょう。 ホームページ

活動の様子は新ホームページの青年

部ブログをご覧ください。

入会希望の方はこちらまで

さくら保育園 (船橋市)

047-302-8301 飯島



災害対策のヒント

令和元年9月9日、台風15号が千葉県を襲いました。経験したことのないような風雨により、多くの建物が損傷し、甚大な被害をもたらしました。千葉県を中心に大規模停電が発生し、断水に加え、交通、輸送、通信に影響が拡大し、日常生活に大きな影響が出たことは記憶に新しいと思います。

そこで、今号では約2週間にわたる停電を経験された社会福祉法人生活クラブ風の村保育園八街(定員60名)の石川晶子園長に当時の体験や対応、今後の備えへのアドバイスを聞き取りました。訪問した当日は天気も良く、スムーズに保育園に到着しましたが、道中はまだまだ倒木が目につき、当時の被害の大きさを実感しました。



園庭からみた園舎。園庭へは、はだしでも靴を履いて出てもOKとのこと。自然豊かで、時間の流れがゆっくりと感じられた。

自然に囲まれた園舎は、子ども達がのびのびと生活できる素敵な環境でした。石川園長の記録もいただきましたので、ぜひご覧ください。

【被害状況】

園舎周囲の木々が倒れ(園庭内・保育園への私有道路・敷地内)周囲電線の切断による停電に加え、外灯破損、雨によるエアコン故障(2台)

【災害発生時の職員体制など人員配置】

令和元年9月9日(月)当日、早番(7時)職員の到着に時間がかかる。6時ごろより早番職員から『通勤途中だが、通行止めや渋滞により7時に到着できない可能性がある』と園長へ連絡が入っていた。正規職員に一斉連絡をし、可能な職員は園へ向かうよう指示をする。(早番の職員は6時台には八街市へ入っていたが、到着したのは9時近くだった。)

もう一人の早番職員も園に向かっていたが、結果として出勤できず休みとなり、最終的に14名が出勤し6名が休みとなった。職員24名中、17名が家庭でも停電や屋根が飛ばされるなど被災したことから、その配慮も必要であった。

9月10日(火)～9月13日(金)まで契約保育士は休みとし、厨房職員は勤務時間を短縮、もしくは休みにしたりと、その日の予定に合わせ変更した。正規保育士については、短縮勤務として1日平均4時間、また1週間のうち(9月10日～13日)

1日～2日は休みとして対応し、妊婦職員はすべて休みとした。園は日曜含め8日間休園し、園児受け入れを停止したが、休園期間中も正規職員の半日勤務を組み合わせながら7時から18時まで職員を配置して、倒木処理などの開園準備を行った。

9月17日(火)より、職員体制はほぼ通常通りとなる。※別掲の表を参照のこと

【推奨する事前対策や備品】

・受水槽があれば、配管に蛇口設置工事を行っておくことで、スムーズに飲料水を確保できる。



水の確保は特に重要。高額な長期保存水の備蓄のみではなく、井戸・受水槽を活用したい。

(写真：風の村保育園八街の受水槽)

・車の燃料が半分になったら満タンにするよう習慣づけておく。(今回は屋外活動後のクールダウンに車の冷房を活用した。ガソリンスタンドは、停電後

ぼ閉店状態であった。)

- ・懐中電灯より、ヘッドライト型やランタン型の方が両手が使えたり、照明の代わりとなり便利
 - ・発電機(燃料:ガソリンやカセットボンベで使用できる物が複数あるとより良い)
 - ・大型蓄電池(発電機が使用できない時間帯に便利)
 - ・気候に応じた必需品(カイロ、ストーブ・毛布・叩くと瞬間冷却するもの、クーラーボックスなど)
 - ・延長コード(電源元から離れた場所への電気確保)
 - ・水をためておける容器(2ℓペットボトルが便利)
 - ・簡易トイレと設置用テント(水があっても、停電しているとき下水へ流れなくなる)
 - ・電気工事業者との関係作り(大きな発電機や電源車設置の時、通常電源に戻す時など、電気工事が必要)
 - ・連絡ツールの確認・検討
 - ・EV車(家電が数時間使えるレベルの電源となる)
- ※季節や時間などを想像しながら準備することが必要であると感じたとのこと。

【その他】

停電すると固定電話は使用できない。加えて個人の携帯電話もつながりにくい日々が続いた。園にあった折りたたみ式の携帯電話が災害用優先携帯となっており、それが通じる状況だった。井戸水を汲み上げるため発電機を使用した。塩素投入の機械が上手く動かず、塩素の注入が不安定で、水は出るものの使用できない日が続いた。

た。また水質検査も必要となるため、結果が出るまでは水を飲用に使用できなかった。倒木除去については、被災していない地域の業者と関係があったので、早めに対応してもらえたが、地震等の広域災害であったら早々の対応はしてもらえないと思う。

市から災害物資が届いたのは、2週目に入ってから。自園での事前対策・準備が不可欠である。地域の方が心配して見に来て下さった。地域との連携や交流の大切さをより感じた。



停電が大規模・長期化したのは倒木が大きな原因と言われている。園職員だけの撤去は困難だったとのこと。(写真上:保育園入口の舗装道路 下:園庭)

【今後の予定、継続していく事】

災害倉庫以外に災害備蓄としていつも提供しているジュースやお菓子、缶詰などを厨房に備蓄しているが、さらに意識的な備蓄を進める。今後、災害時メニューを作成予定。

飲料水は、ウォーターサーバーを日常活用しており、水タンクを備蓄(12リットル×4本)としている。これ以外に2ℓのペットボトル水を51本備蓄しているため、維持していく。厨房には災害時にも使用できる高性能浄水器を設置している。

災害用倉庫に子ども・職員の着替え一式を入れており、引続き行っていく。(年一回、衣替え実施)

【早急に購入したいと思うもの】

- ・ソーラー蓄電池
 - ・発電機(カセットボンベ使用のもの)
 - ・使い捨てトイレ
 - ・トイレ設置用テント
- ・情報伝達についてシステム導入を検討している

【被災経験をうかがって・・・】

近年の温暖化により、予測を超える災害が増えるといわれています。より効果的で意味のある対策・備蓄を心掛け、子どもの安全を守りたいものです。地域や周辺の保育施設と連携を図っておくことも必要かと思われます。『災害発生時を想像しながら準備を進める』という石川園長の言葉が印象的でした。

2019年9月9日 台風15号の状況と対策】

生活クラブ風の村保育園八街

日時	保育の流れ	状況
9月9日(月)	家庭保育協力依頼 停電のため朝、連絡網を回し家庭保育協力をする。夕方には、各家庭に職員が保育園の状況と明日からの休園状況を電話連絡する。 ブログ発信をする。	停電 園庭内森、駐車場から保育園までの道に倒木、 外灯故障、エアコン故障 井戸水使用不可 建設会社：屋根被害調査
9月10日(火)	休園となる(～17日(火)まで)	停電。井戸使用不可。
9月11日(水)	休園となる	停電。井戸不可。建設会社：重機で倒木処理
9月12日(木)	休園となる。ブログ発信をする。	停電。井戸不可。建設会社：重機で倒木処理
9月13日(金)	休園となる。ブログ発信をする。	停電。井戸不可。
9月14日(土)	休園となる	発電機にて電力確保、井戸水組み上げ。 法人内他施設が使用していた発電機を園に移設。建設会社：発電機の対応 ガス会社：プロパンガス設置。
9月16日(月)	休園となる。ブログ発信をする。	発電機にて電力確保、井戸水組み上げ。
9月17日(火)	休園となる。ブログ発信をする。	発電機にて電力確保、井戸水組み上げ。 EV車到着(電話、洗濯機、タイムカード利用可)。 水質検査用サンプル採取。
9月18日(水)	保育開始。7:00～16:30の保育とする。 お弁当持参。ブログ発信をする。	発電機にて電力確保、井戸水組み上げ。 EV車交換
9月19日(木)	7:00～19:00開園。お弁当持参。 各家庭に電話連絡する。 ブログ発信をする。	9時に発電車到着。12時より電気使用できる。 建設会社：発電機から発電車へ配電切り替え。 井戸水滅菌器故障のため修理。
9月20日(金)	7:00～19:00開園。お弁当持参。	井戸水滅菌器修理。 水質検査結果、異常なし。
9月21日(土)	7:00～18:00。 ブログ発信をする。	発電車から通常電気復旧へ 建設会社：通常電気復旧により電気工事。
9月24日(月)	通常保育。給食提供。 (メニュー変更実施：9月27日まで)	

※ 9月17日、水質検査採取して異常がなかったが、その後滅菌器の調子が悪かったため9月26日に再度全項目の水質検査を行った。10月1日、結果異常なし。その後、滅菌器故障のため10月14日修理を行う。(発電機を使用した事で壊れた可能性がある)

10月13日14日滅菌故障(塩素濃度が高くなりすぎ使用できず)のため井戸水使用できずミネラルウォーターで対応。紙皿で対応して給食を提供した。

保育者の集い 〈新発見〉

令和2年1月25日、森田健作千葉県知事をお招きし、ホテルグリーンタワー幕張にて第24回保育者の集い（サブタイトル：新発見）が参加園82園・参加者数407名をお迎えして開催されました。茂呂会長以下、川添副会長、岩間委員長を中心に総勢21名の委員が保育の合間を縫って準備を進めてきました。結果、多数の保育者に参加いただくことができ、意義のある研修会となりました。参加者された皆様には自分のこと・子どものこと・周囲の人のこと、様々な『新発見』がありましたでしょうか。



主催者代表 茂呂剛 会長

来賓 森田健作 知事

それでは、準備を担当した委員からの報告をご紹介します。いたします。

全体研修会

『子どもに笑顔を』

〜聴くだけで保育が楽しくなる話〜

子どもコンサルタント 原坂 一郎 先生

原坂先生は神戸市において23年間の保育所勤務のご経験があり、講演の中には実体験も多く、我々保育園で働く者たちにとって、共感することができるとともに、リアリティを感じながら聞き入ることができました。

笑顔のある保育者には子どもたちも興味を持ち、指示をよく聞けるようになるという話がありました。これは特段難しいことではなく、どの保育者も心がけ次第ですぐに実践することができているものです。しかし、実際には分かっているつもりでできていないことが多いのだという事をもししたら原坂先生は伝えなかったのではないだろうかと今になって思ったりもします。

我々保育者は子どもに接することが仕事であり、子どもの笑顔を守る義務があると考えます。その為にはまず保育者が笑顔であることが重要です。『何も1日中笑顔でいる必要はない。一瞬の笑顔でも十分である』という事をおっしゃっていたことにより多くの保育者が肩を張らずに取り組めるのでは

ないでしょうか。

また、原坂先生の提案する5W（何故？どうして？など）のワードは子どもたちにとって効果的ではないこと、それでもつい使っている大人が多いという事をご指摘いただき、ハツとした思いになり、自分たちの保育を見直すきっかけとなりました。

保育者にとって共感と気付きのある講演に参加者の方々の表情も明るく、笑い声も聞こえ、充実感のある全体会となったことに改めて原坂先生に感謝を申し上げます。

流山市・けやきの森保育園おたかの森園

園長 小林元

第1分科会

『安田式体育遊び 段階的体育遊び指導』

ホップ・ステップ・ジャンプ』

エール株式会社 斎藤 元輝先生

第1分科会では「体幹を鍛えられる運動遊びと子どもの安全能力向上」をテーマに、安田式体育遊びに基づいた研修をして頂きました。



安田式体育遊びとは、体育遊びを通して人間形成と、脳や全身の機能器官を育むことを第一の目的としており、技能習得のために必要な動作が盛り込まれた共感遊びを段階的に発展させながら、子どもたちが楽しめるように展開していく体育遊び指導法です。実際に体を動かしながら体験した体育遊びは、

- ・挨拶とハイタッチから始まり、室内移動やじゃんけん、体のターン（1回転）などを織り交ぜていく「おはようじゃんけん」
- ・2人1組で手を繋ぎながらマットの上をジャンプで移動し、サイドステップで帰ってくるサーキット遊び
- ・数人で輪になり「かえるのうた」を歌いながらジャンプ（縄跳びの導入になる）

他にも鉄棒補助やマット運動の導入、段階的な指導法や子どもの意欲を高める言葉かけの小さなテクニクなど、たくさんのお話を教わりました。また実際に保育園、幼稚園で子どもたちが体育遊びに取り組む様子を齋藤先生の解説を聞きながら観賞し楽しそうに取り組む子どもたちの熱量を感じました。

今回のテーマ『ホップ・ステップ・ジャンプ』は誰でもできる簡単な遊びから楽しく段階的に展開させていく指導法であり、ホップ（やってみよう、楽しい）ステップ（出来そう、もっとやりたい）ジャンプ（出来た、もっと上手になりたい）と遊びを選択、整理して繋がるよう計画していきます。まず子どもが「やりたい！」と思う気持ちを引き出して

くことが重要であり、日ごろの保育にも繋がるとても大切なことであると感じました。

見て、聞いて、実践しながら翌日からすぐに子どもたちと一緒に出来る遊びをたくさん学ぶことが出来たととても楽しい研修でした。



流山市・森の葉保育園

保育士 久保孝太

第2分科会

『子どものいのちと心を守る』

～危機管理・保護者対応

チーム力のトレーニング

日本保育者支援協会スーパーバイザー

子ども総合研究所代表 新保 庄三 先生

研修を受けて、保護者問題で悩んでいる際には溜め込まずに、悩んでいる事を声に出したり、身体から吐き出したりする事で、相手を受け止める事が出来ると同時に、余裕を持つことが出来ると知りました。そして当たり前の事を当たり前にはしてはいけない事や保護者問題を難しくしてはならないと学びま

した。

そして、話し合いをする際には、必ず若い先生や経験の浅い先生から先に話をしてもらおう。(リーダーが先に話をする、結論が出てしまうため) その後話をまとめていき、全員で今後どうしたら良いのかを検討していく事が大切であるとお話がありました。

保護者問題を解決していくにあたり、解決は自分で出来るのか。クラスで出来るのか。それとも園で出来るのか。園でも解決出来ないようであれば、関係機関に助けを求めることが重要であり、問題の情報は皆で共有していくが、担当や窓口はしっかりと決めることなど、ポイントを分かりやすく教えていただきました。また、このほかにも、



・情報を一箇所に収集することで、右往左往せずに解決へと導く事が出来るようになること。
 ・問題を解決していく上で、「子どものために」が一番危険。保護者に寄り添うのではなく、子どものために保護者に寄り添う事が最も大切であること
 ・保育士は保護者対応の専門家ではなく子どもの専門家。子ども一人ひとりの良い所を見つけて育ん

でいくこと。欠点を見つけないで、皆に愛されているよというメッセージを伝えていくことを忘れてはいけない。

・問題発生時には保護者の思いに気持ちが向きがちだが、何より子どもの気持ちを一番に考える。

職員一人ひとりの考えや気持ちを大切にしていきながらチームで解決していくことが最も大切な事だと、改めて今回の研修で学ぶことが出来ました。

八千代市：緑が丘はぐみの杜保育園

保育士 田中 夏季

第3分科会

『もう一度学び直したい離乳食』

離乳食インストラクター協会認定講師

伏谷 恵美子 先生

「離乳食における子どもへのアプローチ方法」や「子どもにとっての食事とは」について教えていただきました。「人」を「良くする」ことが「食」。乳幼児期に大切なのは、「食事って楽しい」「食事って美味しい」と思う気持ちを育むこと。好きな遊びがそれぞれ違うように、食への興味関心も人それぞれ。まずそのことを、保護者へ伝えていく役割が保育者としてできることのひとつです。

講師の先生のお話を伺って、大人とのスキンシップや自分で食べることを通して自立心が育まれ、味

覚・視覚・聴覚・触覚・嗅覚の五感が育つこと、「食事」の環境もまた

「食」との出会いの時期にとっても大切であると学びました。

自分で食べたい意欲が強くなる1歳頃には「自分で食べたい」気持ちを尊重し、食べる順の強要や好き嫌いへの無理強いはず長い目で取り組むこと。

といっても、苦手な食材を用意しないことは食を選択する機会や知らない食べ物になってしまうことにも繋がるということ、保育者の離乳食への向き合い方へのヒントにもなりました。食があふれる時代だからこそその課題として「上手に生きる為に食を選択する」という力が必要になってくる。ということをお聞きし「食」と共に「食文化」も伝えていける私たちでありたいと改めて感じました。

時代を経ても変わらない、家庭で目指す食育「欠食なく食べる」「1日3食」「正しい配慮(マナー)」「旬を知る」を、目の前にいる親子と一緒に大切にしていきたいと思えます。

市川市：風の谷こども園

保育士 糸賀 睦

第4分科会

『災害対策』

〜保育の中での災害対策〜

元横浜市安全管理局危機管理室長

ホテルニューグランド顧問 荒巻 照和 先生

保育園での避難訓練で安全性を高める方法を学びました。また、自然災害に備えて災害時の状況を映像で拝見し、食事の提供方法、アレルギー児への対応など幅広く学ぶことができました。簡易トイレの作り方や災害時に使える簡易用品、耐震対策などすぐに取り入れられる内容がたくさんありました。

研修は、豊富な図表や映像資料により、臨場感あるものでした。災害の危険度を知る事が事前対策、防災につながると強く感じました。マニュアルではなく、想像力を働かせた行動力が必要で、やる事が記入してあるチェックリスト化(実行した物を消していく)すると良いとお話がありました。訓練で行った事しか実際の場面では動けないため、知識よりも意識を高くして、事前対策を立てる必要性を感じました。

東日本大震災の映像では、速報で地震発生を知らせるニュースが入り、それから実際に揺れを感じるまでの時間が40秒ありました。その後2〜3分で大きな揺れがきます。映像を見ながら数える40秒は意外と長く感じ、その間にできる行動や想定した訓練を考えていこうと思えました。

また、消防士と保育士の違いは『笑顔』がある事だと先生が話していたのが印象的でした。熊本地震被災地の保育士アンケートから学び、災害時の対応は優しさと厳しさを持つて行う事を知りました。確実に生き残るための防災・減災（被害を最小限に抑える事）を目指すための避難訓練や備蓄品の再確認を今回の研修を通し、自園でも取り組んでいきたいと思えます。

千葉市・千葉寺保育園

保育副主任 岡野 佐紀

第5分科会

『いくつの子でも笑顔になっちゃおう』

おもちゃ作り』

～作るを通して友だちと学び合おう～

あそび塾『はらっぱ』主宰 荒牧 光子 先生

年齢ごとに作って楽しめるおもちゃ作りを行い、終始驚きと発見、笑顔溢れる研修となりました。『フイリピン紙でっぽう』作りでは、思い切り振る際の手の動きが、ボール投げの手の動きや力の使い方へとつながることや『紙コップDeぞう』作りではストローを吹いて音を出すことで深い深呼吸ができ、体内の空気が循環して感染症の予防へと繋がったり、発達面では言葉が出やすくなったりと、ただ作って遊ぶだけでなく、発達に繋がることも学ぶこ

とができました。

他にも様々なおもちゃを作る中で、素材を分け合うことや、はさみの正しい持ち方のお話があり、上の穴に親指、下の穴に中指と薬指を一緒に通し、人差し指を下のかばみにおいて固定すると安定すると聞き、驚きの声が上がりました。道具の形状には意味があり、正しい使い方を知らずにイメージで覚え、子どもたちに伝えていたことに気付き、今回知ることができて良かったと思うとともに、イメージではなく正しい知識を伝えていくことも保育者の役目であると考えさせられました。



また、大人が当たり前に使っているテープやのりも『貼る』という作業は『押す・こする・待つ等』作業があつてこそきちんと貼ることができるという事や、ボンドはある程度乾かしてから貼るなど、物の性質を知り、一つひとつ意識をして丁寧に伝えていく必要があるのだと気づかされました。そして様々なおもちゃを作る過程で、素材を分け合ったり、貸し借りをしたりと環境構成の工夫によって、また一つ『やりとり』という学びが増えています。研修での楽しさを子どもたちにも感じて欲しいと

思い、園に帰って早速取り入れてみました。その際作ることで生まれる笑顔、発見、喜び、表現、仲間とのやりとり等、経験が豊富にあり、製作の奥深さを感じることができました。荒牧先生のような、楽しさと笑顔溢れる制作活動を大切にしていきたいと思えます。

山武市・若杉保育園

保育士 宇都木 寿夏

第6分科会

『子どもの育ちと学びの可視化にむけて』

～ポートフォリオ・ドキュメンテーションの

考え方・作り方について学ぶ～

鶴川女子短期大学 国際子ども教育学科教授

森 眞理 先生

近年、保育現場には欠かせないと注目を集めている「ドキュメンテーション」と「ポートフォリオ」知識や技術の教え込みや結果重視から子どもが主体として遊び生活する中で考え学び育つその過程を大切に保育のあり方への問い直し・見直しが求められています。子どもの日々の成長の姿や学びを可視化する「ポートフォリオ」などの記録の取り方と見る視点について学び、保育者同士、子ども、親との共有を通して、よりよい保育の創造に活かし、新しい世界をみえる化していきましょうという内容と

なっていました。

参加者の中には、ポートフォリオを取り入れている園だけではなく、知りたいと興味を持って受講されている方も多く見られました。私自身、勤めている園でも今年度よりポートフォリオを取り入れ、普段の子どもの姿、夢中になっていることを保護者の方と共有できるようにと取り組んでいます。この方法でいいのかと疑問を感じていました。

写真には物語があり、様々な考え方、感じ方があるということ、正解はひとつではない、恐れずにアクションすることでその瞬間がみえてくるといってお言葉は私の背中を押して頂けるものとなりました。ポートフォリオの存在は、子ども、保育者、保護者、地域・社会にとって様々な役割を果たします。子どもにとって、写真をもとに自らの経験を振り返り、新しい意味を見出していったり、保護者にとって、子どもについて知らなかった姿を知ることになったり：私達が作るポートフォリオもそういった存在に繋がれたらと感じています。

今回の研修に参加し、ポートフォリオを身近に感じることが出来ました。

香取市・明照保育園



第7分科会

『倉橋惣三』『児童心理』講義録

から読み解く』

淑徳大学教授 千葉大学非常勤講師

榎 英子 先生

保育教諭 湯浅 恵莉香

講師である榎先生の義母が倉橋惣三先生の講義を受けたノートが見つかり、保育指針のバックボーンになっている倉橋先生の保育理念から一緒に言葉を探しつつ、事例を交えながらグループディスカッションをして考察し、感想を述べあいました今回、講師の先生からは保育士経験年数の長い人と短い人とをバランスよく分けて欲しいとの依頼があったのですが、主催者側で経験年数を把握していない事もあり、受付名簿から6つに振り分け席してもらおううに対応しました。結果、どのグループも意見が言い易い雰囲気となり、また他園の様子に話がはずみ貴重な経験が出来ました。事前資料を読んだ時には難しい内容かなと思いましたが、講義を受けていくうち、徐々に理解することができ、時間が過ぎるのがあっという間でした。もう少し時間が長くても良



かったと思うほど内容が濃く集中できました。参加者の中には講義内容とは別に、榎先生の大学での教え子が先生との再会を期待し、参加されていたことに驚きました。たくさんの方々との出会いや、企画までの過程など初めての事が多く、勉強になり参加できた事に感謝しています。

船橋市・みどり保育園

保育副主任 高津 悦子



お忙しい中、多くの保育者を出席させてくださった加盟園の皆様には感謝申し上げます。また10か月におよぶ長い期間をかけて、丁寧に準備をしてくださった委員の皆様、委員を派遣してくださった園の皆様、ありがとうございます。

次年度も保育者の集いが計画されております。今回頂戴したアンケートを基に、より内容の濃い、保育者のニーズに合った研修会となるよう準備を進めていきたいと思えます。また共に研修会を作り上げる協力委員にも奮ってご応募いただければ幸いです。よろしくお願いたします。



千葉県民間保育振興会ホームページ



ホームページアドレス <http://shinkokai.main.jp/>

千葉県民間保育振興会

検索

新たな時代を迎えるにあたり、皆様により細かな情報をリアルタイムに発信できる場としてホームページを活用しています。



- ☆ **見やすいページ構成**・・・更新状況やお知らせなどを、見やすい位置に表示しています。
- ☆ **更新作業の効率化**・・・細かな更新がしやすくなり、リアルタイムな発信が可能となります。
- ☆ **各委員会活動報告のスムーズな公開**・・・研修報告をはじめとした振興会の活動報告を随時公開して参ります。
- ☆ **閲覧しやすい加盟園情報ページ**・・・地図からエリアが選べるようになりました。
- ☆ **わかりやすいお問い合わせページ**

慣れない広報誌作成に四苦八苦しながらも新委員で2号目の発行にたどり着くことができました。今号から、書体デザイン「BIZ UD明朝」を用いた紙面となっております。見やすい、読みやすい、間違えにくい、の3点を重視して開発された日本初のユニバーサルデザイン書体だそうです。

広報委員として、被災された保育現場に足を運ぶことができ、貴重な経験をえました。この経験はもちろん、保育園での毎日役立つ情報をタイムリーにお届けしたいと考えておりますが、紙媒体の発行にはどうしても時間がかかってしまいます。

次年度もこの課題と向き合いながらの発行となりそうですが、委員の知恵と工夫により良い広報誌をお届けできるよう頑張りますので、応援よろしくお願いたします。

編集後記